



三川内中学校裏手の道路脇に小さな祠があり、そばに二基の石碑が建てられています。後ろの碑は大正八(一九一九)年建立の「起請文」の碑で「干茲○○勤テ小谷稻荷神社神前ニ白ス」と形式を踏まえた神文が刻まれています。

ここでは匿名にしていますが、碑文は本名で、祖父の代に稻荷神の使用である狐を殺し、その命(冥罰)と怨念で子や孫に病弱な子や障がいのある子が生まれた。私は孫子の代まで狐狸の殺生を禁じるので神明の加護をお授けください、と必死の祈願がつづられています。

「若し子孫在犯ノ者ハ必ス神明ノ罰可蒙、仍起請文如件」と、古式の様式にのっとり結ばれています。文面から見て、この人は心から神仏を敬い、しかも相当の教養を積んだ旧家の人だと想像されます。



「私は神前に誓って約束を守ります」との起請文は、遠く千年も昔の平安時代末に始まりました。源頼朝の鎌倉幕府は、貞永元(一二三二年)に幕府の基本法典となる御成敗式目(制定)しますが、その末尾の罰文の結びがそのまま後世の起請文に典型として受け継がれていきます。

深い信仰心が日本人の共通認識だった感覚が、大正デモクラシーという近代化全盛の近年まで三川内の地で生き続けていた証拠の石碑に感銘を覚えます。

同時にまた、神の使いとして恐れられていたキツネやタヌキが、人々に家族思いの人まで苦しめ、神に約束する起請文を書かせた事実(哀れさを感じます。神も仏も忘れられようとする現代、つい九十年ほど前の世代に生きていた「恐れ、畏れ」の念に、改めて思いが及びます。

歴史散歩 第五二回 親子二代の起請文碑 ● 新行江町 撮影・文 ● 筒井隆義

市長日記

徳育推進のまちづくり宣言



「徳育推進のまちづくり宣言」を行う朝長市長

1902年4月1日、当時の佐世保村が一気に佐世保市となってから、ことしで110周年を迎えました。本年4月1日、本市は市制施行110周年記念式典をアルカスSASEBOで開催。式典では市政功労者表彰などを行ったほか、今回は節目の年を記念し、ハウステンボスの澤田秀雄社長の講演や「徳育推進のまちづくり宣言」も併せて行いました。

昨年11月に佐世保市徳育推進会議(木村勝彦会長)から提言を受け、3月定例市議会で承認された「徳育推進のまちづくり宣言」。全国初の試みと言われており、本市の記念すべき年にふさわしい意義あるものになったと思っています。

21世紀は「徳化」の時代と言われる。また「財をつくるは小なり」「家をつくるは中なり」

「人をつくるは上なり」とも言われますが、これからの日本は、今まで以上に「人づくり」が重要になると思います。今回の宣言はそのような意味からも、佐世保から全国に徳の重要性を発信するよい機会になったのではないかと思います。

今後、徳育の取り組みは、「一家(社、課、校、園、館、会など)一徳運動」を中心に推進していきます。市教育委員会と協力し、「広報させほ」への掲載など、さまざまな機会をとらえて、市民の皆さんに情報を提供していきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「徳」「道」「礼節」「修身」などの重要性は、神代の昔からいつの時代も、親から子、先輩から後輩、上司から部下、教師から生徒などへ伝え続けられてきました。このような伝承が、今の日本では失われつつあるのではないかと危惧されています。私たちの伝統的な「徳」が末永く続くように、この宣言を機に、家庭で、職場で、地域で、意識して「徳育」を推進していこうではありませんか。

佐世保市長 朝長 則男



シリーズ③ 全国から名牛が集う、和牛の大会!

「和牛の祭典inながさき」のメインとなる催しは「第10回全国和牛能力共進会」です。和牛に関係する大会では最も大きなもので、10回目の記念大会である今回は、「和牛維新! 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」をテーマに開催されます。現在38道府県から約490頭の出品が予定されており、全国で日本一を目指した牛づくりが行われています。本市でも、1頭でも多くの出品を目指し取り組んでいますので、全国の名牛が集うこの大会をぜひご覧ください。

時 10月25日(日)~29日(木)
場 ハウステンボスなど
問 農業畜産課 ☎24-1111

エアフォトグラファー 多胡光純 西海国立公園 九十九島を飛ぶ DVD販売開始



エアフォトグラファー多胡光純氏撮影の空撮映像をDVD化し、販売を開始しました(販売価格2,800円+税込み)。
【販売場所】西海パールシーリゾート(九十九島ビジターセンター、アクアショップきらら、遊覧船/パールクイーン船内)、佐世保コンベンション協会窓口(佐世保駅構内)、させほ四季彩館
問 観光物産振興局 ☎24-1111

東日本大震災の被災地支援 義援金累計1億5653万153円

【3月受付分】敬称略・順不同
▷きらきらフェスティバル実行委員会(本島町)▷立神音楽室利用者連絡会(立神町)▷(株)ラッキーボウル(常盤町)▷大塚満子(桑木町)▷鎮西駅伝大会2012(大湯町)▷吉村浩行(天神2丁目)▷社会福祉法人三省会やまずみ荘募金箱(山祇町)▷蛭川誠嗣(山祇町)▷松原町1組公民館(松原町)▷松原町1組婦人部(松原町)▷CLUB-GINZA-SASEBO(上京町)▷早岐くりのみ幼稚園(権常寺1丁目)▷山下敦子(黒髪町)▷安西弘子(島瀬町)▷オオノ/チャヤカカシ▷光武正治(稻荷町)▷桜珠算会▷ナガサキケンリツサセボミ▷楠栖小学校一同(小佐々町楠泊)▷佐世保市競輪臨時従業員共済会(干尽町)▷アルカスSASEBO(三浦町)▷西地区生涯学習推進会(金比良町)▷コバヤシヒロシ▷浅子小中学校児童生徒会(浅子町)▷浅子小中学校(浅子町)▷長崎県栄養士会佐世保支部病院栄養士協議会▷山口和子(瀬戸越1丁目)

東日本大震災義援金は、3月をもって受け付けを終了しました。お預かりした義援金は、全国市長会等を通じ、被災者支援に充てさせていただいております。皆さんから寄せられました善意に心からお礼を申し上げます。

問 市民協働推進室 ☎24-1111

徳育通信②

心も思いも美しく生きる

先日、車を運転していたときの出来事である。小学校中学年ぐらいの子どもが3人、道路の向こう側へ渡ろうとしていた。ところが、途切れることなく車が往来するため、渡るタイミングをつかめずにいた。通りかかった私は、車を止めて「どうぞ」と手で示すと、ニコッと笑って渡って行った。そして、渡り終えると私の方を向いて、「ありがとうございます」と大きな声でお礼を言ってくれた。3人の子どもたちは私に一日中消えない喜びを与えてくれた。その子どもたちの家庭の温もりあるしつけが見えたように思えた。かつて読んだ宮澤章二さんの「行為の意味」という詩の一節に次のようなことが記されていた。

徳育でキラッとひかる佐世保市民

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
<心>も<思い>も初めて美しく生きる
-それは 人が人として生きることだ
宮澤章二「行為の意味」より

佐世保市では「とどげよう明るい笑顔 伝えよう感謝の心」を合言葉に、「徳育でキラッとひかる佐世保市民」を目指した取り組みが始まった。「徳育」「徳性」は心の問題であり、難しい。思いやりは想像力。相手の笑顔を想像しながら、心が生きる・人間が生きる佐世保市の実現を目指したい。



前佐世保市徳育推進会議副会長 江口 ハツ子